

講座 比較農史農学論

2.6.8 研究分野：農学原論

構成員：教授	末原達郎
准教授	秋津元輝
助教	大石和男
大学院博士後期課程	8名
大学院修士課程	5名
専攻4回生	8名
博士研究員（PD）	1名

A. 研究活動（2010.4～2011.3）

A-1. 研究概要

a) 農学に関する哲学的、倫理学的研究

農業および農学とその研究の方法について、哲学的、倫理学的、科学社会的側面から研究を行なっている。また、科学、特に生命・環境・食料・農業をめぐる科学が現代文明とどのように関係しているのか、社会と科学との関係に関する研究を行なっている。

b) 食料に関する文化的研究、歴史的研究、人類学的研究

食料および食べ物に関する文化的研究、歴史的研究および食料人類学的研究を行なっている。特に、食料の生産、流通、消費に関するフード・チェーンと、文化的規範、社会的規範、飢餓、食料不足、社会的分配に関する研究を行なっている。

c) 農山村地域社会の持続性と新しいコミュニティに関する研究

日本の農山村は「限界集落」に代表されるように、持続性の危機にさらされている。高齢世帯が増加し、世帯数自体も減少してしまった集落を積極的に消滅へと導くべきという議論もあるが、地域資源の維持・管理などを考えると、持続性への模索はやはり重要となる。研究においては、転出家族員のUターンや他所出身者のIターンなどによる移住者たちが、長い伝統をもつ集落社会においてどのようにこれからの担い手となるのか、あるいは現住者の活動レベルを向上させることによってどのように地域の将来につなげられるのか、パターン分類をおこないながら、集落再生への道筋を考察した。

また、農山村環境あるいは農業への関心の高まりにより、農山村地域にまったく新しいコミュニティが移住者たちによって形成される事例も見られるようになってきた。それらに関して、アジアレベルに視野も広げながら、その構成原理について研究し始めている。

d) 近現代日本の農本思想にみるサブシステムの性格の検討

近現代日本における農本思想群について、アメリカのアグラリアニズムなどと比較を行いつつ、それぞれの思想にみられる特徴を明らかにし、同時にそれらとサブシステムの性格との関係について解明するための研究を行う。

A-2. 研究業績（国内・国外含む）

a) 成果刊行

著書

・末原達郎、「生業としての日本農業と集落営農という装置」、松井健編『グローバルゼーションと〈生きる世界〉』、東京大学東洋文化研究所、pp.207-245、2011

・末原達郎、「人口と食料」、『食と農を学ぶ人のために』祖田修・杉村和彦編、世界思想社、pp.57-76、2010

・末原達郎、「赤道アフリカの森林地帯の農耕民と狩猟民の生活と文化」、『新版アフリカを知る事典』、pp.12-15、平凡社、2010

・秋津元輝、「農業の社会学-誰がどう農業を担うのか」、祖田修・杉村和彦編『食と農を学ぶ人のために』、世界思想社、127-145、2010

・Akitsu, M., The NGO Activities from the Bottom: Focusing on a local NGO's programs for conserving local cultures and resources in Northern Thailand, Cultural Diversity of the Mekong River: Sharing Experiences from Japan and the Mekong Countries, Mekong Sub-region Social Research Center [MSSRC], Ubon Ratchathani, Thailand, 94-117, 2010

原著論文（書評論文を含む）

- Suehara, T., Contexte et évolution socio-économiques de l`agriculture japonaise, Du Teikei aux AMAP: Le renouveau de la vente directe de produits fermiers locaux, pp.23-28, Presses universitaires de Rennes, France, février, 2011(査読あり)

- Yamazaki, Y. et Suehara, T., Dynamiques de néo-rural : Le cas de la ferme <Okera>, Du Teikei aux AMAP: Le renouveau de la vente directe de produits fermiers locaux, pp.113-122, Presses universitaires de Rennes, France, février, 2011(査読あり)

- 秋津元輝、「米政策と農村社会政策の接点-制度定着条件の議論をこえて-」、 『農業経済研究』、82 (2) 、93-101、2010、査読有

- Motoki Akitsu and Namie Aminaka, The Development of Farmer-Consumer Direct Relationships in Japan: Focusing on the Trade of Organic Produce, *Asinan Rural Sociology IV*, 509-520, 2010, 査読有

- 秋津元輝、「農への多様化する参入パターンと普及への期待」、 『農業普及研究』、15 (2) 、4-10、2010、査読無

- 書評：秋津元輝、山下裕作『実践の民俗学-現代日本の中山間地域問題と「農村伝承」』、 『村落社会研究ジャーナル』、16 (2) 、2010、査読無

・大石和男「『新京野菜』という新たな伝統づくり」『農業と経済』（臨時増刊号：期待される大学の地域貢献）、29-34頁、2011、査読無。

総説

・末原達郎、「新しい食農教育の構築—市民の生活スタイルの見直しは可能か—」、『農業と経済』第77巻第1号、pp. 89-98、2011年1月

報告書・その他

・Akitsu, M., Comparative Study on Farmer-Consumer's Relationship: For Linking Theoretical Approach with Empirical Study, What Kinds of Ethics Support Food Communities?: Intimate and Public Relationships between Farmers and Consumers, edited by Motoki Akitsu, Kyoto University Global COE Program for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia, Kyoto, Japan, 1-14, 2011

・Akitsu, M., A Japanese tradition of study on agricultural ethics: a critical review of the academic history of 'Philosophy of Agricultural Science', 『科学を基礎とした食品安全行政／リスクアナリシスと専門職業、職業倫理の確立』（科研最終成果報告書、基盤A 19208021、研究代表者：新山陽子）、207-215、2010

・大石和男「アグラリアニズムと農本思想の比較にみるサブシステムの性格の検討 —現代農本思想論への手がかりとして—」『農本思想の現代的意義に関する研究』（平成20～22年度科学研究費基盤研究(C)研究成果報告書 研究代表：岩崎正弥）、120-135頁、2011。

・大石和男「日米の農的思想にみるサブシステムの性格の検討」増田和也ほか『親密圏と公共圏をつなぐサブシステムの再構築に関する研究』（京都大学グローバルCOEプログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」GCOEワーキングペーパー次世代研究40）27-37頁、2010。

b) 学会発表

- ・総合人間学会 1回
- ・日本農業経済学会 1回
- ・4th International Conference of Asian Rural sociology Association 1回

A-3. 国内における学会活動など①

所属学会等（役割）

・末原達郎：日本農業経済学会（副会長）、日本アフリカ学会（理事、編集委員会委員長）、地域農林経済学会

・秋津元輝：日本村落研究学会（理事）、環境社会学会（編集委員）、地域農林経済学会（編集委員）

A-3. 国内における学会活動など②

競争的資金等獲得状況

①科学研究費補助金

・文部科学省科学研究費補助金・基盤研究A：杉村和彦（研究分担者：末原達郎）：アフリカ・モラル・エコノミーを基調とした農村発展に関する比較研究

・文部科学省科学研究費補助金・基盤研究S：新山陽子（研究分担者：秋津元輝）：食品リスク認知とリスクコミュニケーション、食農倫理とプロフェッションの確立

②その他の競争的資金

・京都大学グローバルCOEプログラム：落合恵美子（事業推進担当者：秋津元輝）：親密圏と公共圏の再編をめざすアジア拠点

・文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業：宮浦富保（研究分担：秋津元輝）：里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター

A-4. 国際交流・海外活動①

所属学会等（役割）

・末原達郎：European Society for Agriculture and Food Ethics

国際共同研究・海外学術調査等

・末原達郎

・アフリカ・モラル・エコノミーを基調とした農村発展に関する比較研究

・研究代表者（杉村和彦）

- ・タンザニア、ドドマ大学

B. 教育活動（2010.4～2011.3）

B-1. 学内活動

a) 開講授業科目（担当教員）

- ・ 全学共通科目： 世界の食料・農業・環境（末原分担）、偏見・差別・人権（秋津）、環境科学基礎ゼミナール（大石分担）
- ・ 学部： 農学概論Ⅰ（末原）、農学原論（末原）、食・農倫理学（末原・秋津分担）、調査研究方法実習Ⅰ（末原・秋津・大石）、調査研究方法実習Ⅱ（末原・秋津・大石）、農学原論演習Ⅰ（末原・秋津・大石）、農学原論演習Ⅱ（末原・秋津・大石）、農学原論演習Ⅲ（末原・秋津・大石）、経済思想史（秋津）、農村社会学・社会学特殊講義（秋津）、職業指導（農業）（秋津元輝）
- ・ 大学院： 農学原論Ⅰ（末原）、農学原論Ⅱ（末原）、農学原論演習Ⅰ（末原・秋津・大石）、農学原論演習Ⅱ（末原・秋津・大石）、比較農村社会学・社会学特殊講義（秋津）

B-2. 学外における教育活動

学外非常勤講師

- ・ 秋津元輝：奈良女子大学

公開講座等

- ・ 秋津元輝：野生動物管理システムフォーラム、東京農工大学、講師
- ・ 秋津元輝：平成23年度丹後地域農業士会研究会、京丹後市、講師
- ・ 秋津元輝：平成22年度東海・近畿・北陸ブロック国際化対応営農研究会、京都市、講師

B-3. 国際的教育活動①

留学生・外国人研修員の受入

- ・ 留学生： 修士課程 1名（中華人民共和国） 博士課程 1名（アメリカ合衆国） 研究生等 1名（タイ王国）

C. その他

- ・秋津元輝：京都府「いただきます。京都産」プラン（参与）、次期「京都府農林水産振興構想」検討委員会委員（副座長）、京都府南丹地域戦略会議（委員）、京都府農業会議（専門委員）